

## 万博×環境 未来を描こうプロジェクト 報告会 概要報告

[主催] 大阪府、豊かな環境づくり大阪府民会議、おおさかATC グリーンエコプラザ

[後援] 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

[日時] 2021年3月25日(木) 18時～19時30分

[会場] おおさかATC グリーンエコプラザのZoom会議システムにより開催

[参加者] ○ファシリテーター World Seed 代表理事 岡見厚志

○若者発表メンバー

橋本碧、森成諒、市野梨央、夏山空、多田裕亮、峯有紀

○企業関係者・有識者

象印マホービン株式会社 松本俊二 様、岩本雄平 様

コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社 計良裕一 様、壺井孝彦 様

株式会社三菱総合研究所 長谷川専 様

大阪府地球温暖化防止活動推進センター 田中利男 様

(公財)地球環境センター 土居亜希子 様

日本気象株式会社 荒二井勇 様

株式会社アーバンリサーチ 宮啓明 様、川瀬晃子 様

○主催・後援団体

(公社)2025年日本国際博覧会協会 企画部企画課審議役 高見明伸 様

大阪府環境農林水産部 副理事 小林正興

おおさかATC グリーンエコプラザ 安田夏実 様

○ウェビナー 55名

[概要] 大阪府及び豊かな環境づくり大阪府民会議では、2025年大阪・関西万博に向け、多くの若者(高校生・大学生等)から、実現して欲しい環境・まちづくり等の様々なアイデアを集約して発信する「万博×環境 未来を描こうプロジェクト」を令和元年度に立ち上げ、令和2年度も引き続き、複数回のミーティングを経て、アイデア検討をしてきました。

アイデア実現に向け、企業や関係団体等の更なる協力を得て、継続して検討していくために、令和2年度の検討結果及びアイデアを関係者に広く報告する、「万博×環境 未来を描こうプロジェクト」令和2年度報告会を、オンライン開催しました。

[次第]・趣旨説明(大阪府)

- ・令和2年度の検討メンバーからの提言アイデア発表、及び検討グループを連携等している企業関係者・有識者からのコメント
- ・有識者・ウェビナーとの意見交換
- ・(公社)2025年日本国際博覧会協会からコメント
- ・閉会あいさつ(おおさかATC グリーンエコプラザ)

---

### 1. 提言アイデア発表

「つくる責任つかう責任」 発表者：橋本碧

「SDGs GAME」 発表者：森成諒

「SDGs Point」 発表者：市野梨央

「学生万博構想」 発表者：夏山空

「大阪防災プラットフォーム」 発表者：多田裕亮、峯有紀

各検討グループの発表資料は[こちら](#)に掲載。

---

## 2. 発表アイデアに対するコメント

---

各検討グループのアイデア発表について、次のとおり、企業関係者・有識者からコメントをいただきました。

「つくる責任 つかう責任」

- マイボトル普及の取組みは、会社としても進めているが、マイボトルキャンペーンもなかなか根付いていかないところ。万博開催を契機に、大きな行動変容を促すメッセージにして、未来を担う若い方々に発信力のある取組みにしてほしい。(象印マホービン㈱)
- カーボンニュートラル・脱炭素の目標達成にはご提案くらいの大胆な発想が必要と考える。飲料業界として現在の優先順位はボトル to ボトルの推進であるが、新たな需要を生み出すと言う観点からもこのアイデアを支援していきたい。(コカ・コーラボトラーズジャパン㈱)

「SDGs GAME」

- SDGs カードゲームをよりバーチャルに体験できるように、エリアごとによく課題設定がなされている。エリアごとに自然や文化遺産なども含めて、“見える化”していくとよいのでは。万博会場に集う海外客にも訴えかけるインパクトのある内容になっている。(温暖化防止活動推進 C)
- ゲーミフィケーションの手法を取り入れて、グローバルな環境に考えをめぐらせることができる内容になっている。2025 年には、言語的なバリアもなくなっている可能性もあるので、海外の方もゲームに参加できるだろうが、国・地域等によって来場者の価値観が大きく異なり、選択肢をどう設定すべきかという課題は残る。むしろ価値観が違うことを前提に、経済やインフラの状況・気候等を踏まえて、ゲーム内のエリアごとの条件や選択肢について来場者からの意見を丁寧に聞き取れば、を変えると、来場者の国・地域によって多様な idea が蓄積され、これを分析することで相互理解に繋がり、グローバルな課題解決の糸口としてなり、万博のレガシーとして残すことができるのではないかと。(㈱三菱総合研究所)

「SDGs Point」

- SDGs ポイント活用のアプリをつくることにとどまらず、みんなが行動できるシステムになっている。ポイントの教育ツールとしての活用やスタンプラリー形式、キャラクターの獲得といった発想は、学生らしいアイデア。万博開催に向け、万博開催前、期間中、開催後の3つのフェーズがあるが、開催前は、今ある多くのポイントシステムからヒントを得てはどうか。期間中は、ポイントシステムを活用した特別な体験を、世界に広げることができると、魅力的なものになると思う。世界の人ごとに価値観が違うので、どういったアプリなら使ってもらえるか、インタビューをしていくとよい。期間後は、SDGs ポイントが社会的信用になるということが当たり前のもので進化していると、SDGs beyond に向けてのストーリーがレガシーになるのではないかと。(公財)地球環境センター)

「学生万博構想」

- 学生万博構想にあたっては、企業の力を頼るだけでなく、学生メンバーがチームで課題を解決するため、アイデアを出し合っていくと、学生らしいアイデアになるのではないかと。(公財)地球環境センター)
- 学生万博の開催に向けて、非常に楽しそうな内容で、実施にあたってのスピード感やエネルギー

シュさが素晴らしい。学生万博構想を海外の学生にアピールするのみならず、今年の万博開催地のドバイをはじめ、過去の開催地や将来の開催地（未定）等の海外の学生を巻き込んでいけるとよい。それを今後の学生万博のプラットフォームづくりにしていけばよいのでは。（㈱三菱総合研究所）

- 2030年以降のSDGs beyondに向けては、今の学生のみなさんが主役なので、海外の学生も巻き込んで若い感性で考えてほしい。（㈱三菱総合研究所）

「大阪防災プラットフォーム」

- 気候変動対策はここ10年が勝負と言われている。10年何もしなかったら、無関心どころではないので、いかに啓蒙していくかが重要。防災ポイントやESG投資といった防災の行動変容を促すためのパートナーを見つけていくことも必要。世界中からの来場者は、日本の防災力は注視されているので、海外と連携して取組みを進めてほしい。（※発言者非公表）
- 防災×ファッションという動きは、近年出てきている。認知を上げていくために、府民と対話をしていきながら、日常的なライフスタイルの中に防災グッズをどのように入れていくかを考えていくとよい。また、ファッションの素材が環境によいものかといった視点のように、様々な関係技術分野も大事なので、各分野のテクノロジーに強い企業も巻き込んでほしい。（㈱アーバンリサーチ）

---

### 3.（公社）2025年日本国際博覧会協会よりいただいたコメント

---

最後に、2025年日本国際博覧会協会の高見審議役よりコメントをいただきました。

「つくる責任つかう責任」

- マイボトルの普及にあたっては、若い人たちがカッコいいと思うことをどんどん出してほしい。

「SDGs GAME」

- 70年の大阪万博では、参加150の国・地域の気候を再現できないかという発想から、日本初の地域冷暖房システムが生まれた。エリアごとの違いや、国・地域ごとの違いを前提に、これからどうしたらよいかというideaを導く内容にできればいいのではないかと。

「SDGs Point」

- 協会で募集したPLL提案をHPに公開している。地域ポイントや地域通貨に関する案も多くあり、連携の機会も多くあると思うので、見てほしい。

「学生万博構想」

- 万博会場はパビリオンだけでなく、ギャラリー・メッセ会場など様々な方が参加できる取組みを進めているので、学生が集まるプラットフォームとして、万博との関わりが増えていくと大変嬉しい。TEAM EXPO 2025も様々な活動の応援の場で、会期中のベストプラクティスエリアの出展にもつながる可能性がある。

「大阪防災プラットフォーム」

- 協会でも万博会場の災害対応について検討している。防災に向けて、アイデアの具体的な取組みを着実に進めていただき、万博開催との接点が多くできるとよいものになる。